

1. 実況上の着目点

① 500hPa5160m以下の寒冷渦に対応して発達した低気圧が日本の東を東北東進。アムール川下流域や東シナ海の高気圧との間で、日本付近は北日本中心の冬型の気圧配置となっている。850hPaで-6℃以下の寒気が西日本日本海側～東日本太平洋側に南下。北～東日本では、3時間に5～10cmの降雪を観測、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなっている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 18日は、1項①の寒冷渦と対応する低気圧は千島の東に進み、500hPa5460m付近のリッジに対応して高気圧が北日本に移動し、冬型の気圧配置は解消する。また、東海道沖にはシアーラインが停滞し、四国の南や南西諸島付近は気圧の谷となる。
- ② 19日は、500hPa 5040mの寒冷渦に対応してオホーツク海に低気圧が進み、500hPa 5220m付近のトラフに対応してサハリン付近に低気圧が進んで、気圧の谷が日本海にのびる。また、南西諸島付近は気圧の谷となり、四国の南の気圧の谷上に発生する低気圧が東北東進し、東海道沖のシアーライン上に発生する低気圧が伊豆諸島付近に進む。
- ③ 20日は、オホーツク海を低気圧が東北東進、サハリン付近の低気圧はカムチャツカ半島付近に進み、低気圧からのびる気圧の谷が北～西日本を通過。また、伊豆諸島付近の低気圧は発達しながら三陸沖に進み、四国の南の低気圧は東海道沖に進んで不明瞭になる。南西諸島の気圧の谷は日本の南に進む。
- ④ 18日は、上空寒気や気圧の谷の影響で、19～20日は低気圧や気圧の谷に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。北～東日本では20日にかけて、西日本では19～20日は、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ⑤ 18日は冬型の気圧配置の影響で、19～20日は低気圧や気圧の谷の影響で、北～東日本では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなる所がある。強風や風雪、高波に注意。
- ⑥ 北日本では18日は、下層寒気移流の影響で午前中は降雪が強まる所がある。大雪や着雪、なだれに注意。また、20日にかけて、850hPaで-6℃の寒気は北海道付近に北上。850hPaの気温は平年と比べて、西～東日本で5℃前後、北日本で5～10℃高い状態となる。多雪地域ではなだれに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(06時からの24時間)：北海道10、東北5cm。③ 波浪(明日まで)：北海道・東北・北陸3m。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。



主要じょう乱解説図